

「BELIEVE」

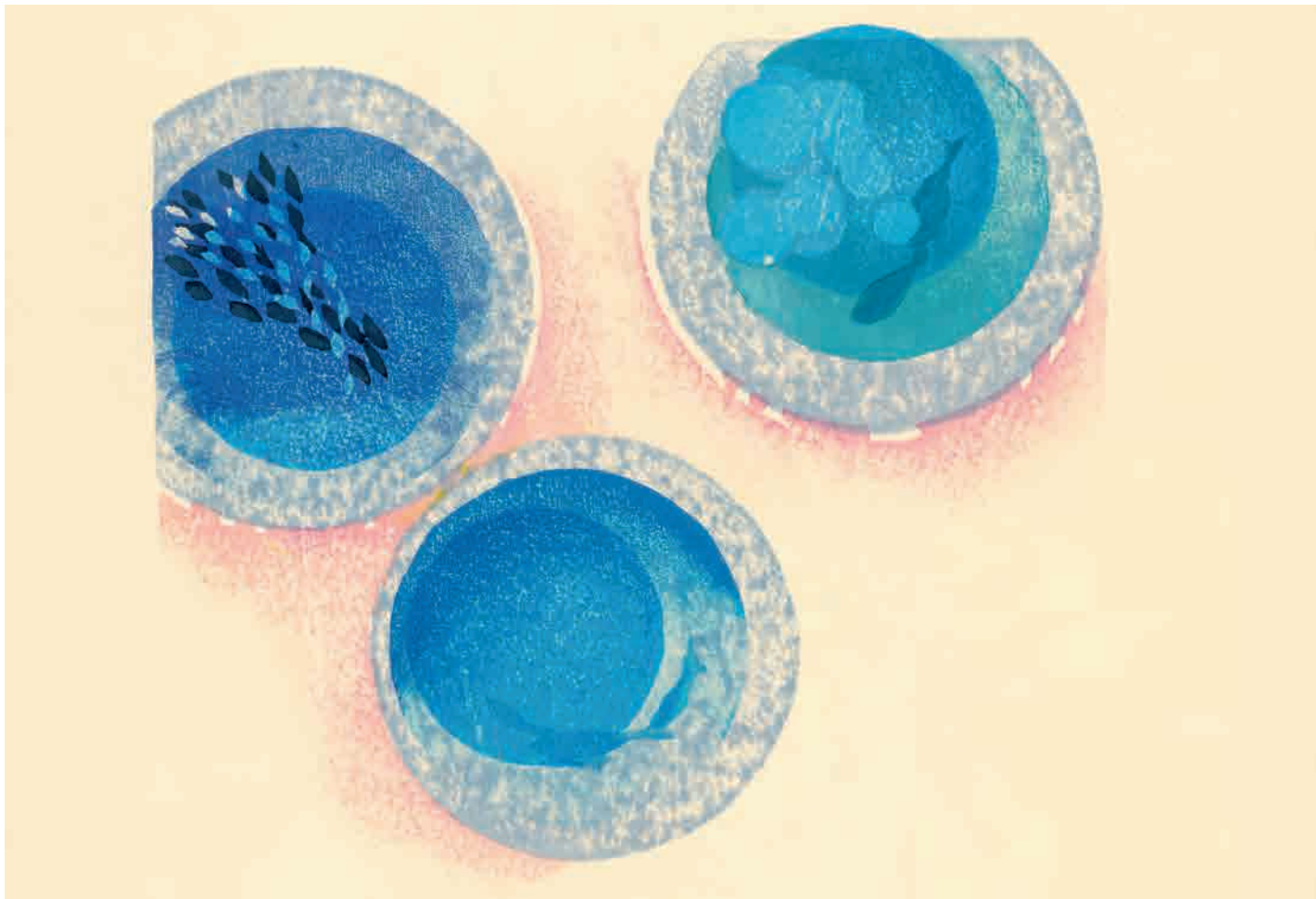
BELIEVE



2015
夏号
VOL.53

「BELIEVE」

特集 **新設 緩和ケア科のご紹介**



Momoca「青い染料」・制作年/2013・素材/水性顔料、和紙〈エイブルアート・カンパニー所属 URL:<http://www.ableartcom.jp>〉

シリーズ **情熱の白衣 医師の素顔** ⑤③ 小児外科部長 **大野 耕一**

- 食だより〈健康食品などの分類について・2〉／お薬ミニ知識〈「脱水」について〉
- がんサポートチームからのお知らせ／大阪赤十字病院ホームページ スマートフォン対応サイトがオープンしました!

大阪赤十字病院の理念

わたしたちは
人道・博愛の赤十字精神に基づき
すべての人の尊厳をまもり
心のかよう高度の医療をめざします

患者さんの権利

1. 一人の人間として、人権をまもられる権利があります
2. 良質かつ適切な医療を、公平に受ける権利があります
3. 医療についての情報や治療上の説明を受ける権利があります
4. 自分自身の治療について、医療行為を選択する権利があります
5. プライバシーがまもられ、個人情報保護される権利があります
6. 自己の診療録等の医療情報の開示を求める権利があります
7. 他施設の医師の意見(セカンドオピニオン)を求める権利があります



新設

緩和ケア科 のご紹介



当院は地域がん診療連携拠点病院として、がん医療の推進とともに緩和ケア体制の整備を進めてきました。本年4月から緩和ケアのさらなる充実を目指し、緩和ケア科を開設しましたので、紹介いたします。



緩和ケア科部長
端 裕之

緩和ケア科って 何を する科 でしょう？

科の名前になっているこの「緩和ケア」という言葉ですが、実はまだしっかりとした意味が定まった言葉ではありません。最近の定義では、『重い病を



▲診察室前(2階)

抱える患者さんやその家族一人ひとりの身体や心などのさまざまなつらさをやわらげ、より豊かな人生を送ることができるよう支えていくケア』とされています。

緩和ケア」と言うと、緩和ケア病棟、いわゆるホスピスの終末期の医療をイメージされる方も多いかもしれませんが、しかし当院では、今まさにがん治療を受けながら当科を受診される患者さんが多いというのが、一つの特徴となっています。

そのため、診断・治療を担当している各診療科スタッフと密接に連携し、そこで治療を受けておられる患者さんとそのご家族のつらさを拾い上げ、それをやわらげ、できる限り質の高い治療を継続して受けていただけるように治療・生活のサポートを行います。一方、当院には緩和ケア病棟やベッドはまだありませんが、いわゆる『がんに対する積極的治療』を終えた方の緩和ケアにも力を入れており、『その人らしい療養』を一緒に考えながら診療を行っています。

つらさを緩和する チーム医療

『がんサポートチーム』

当科では、具体的には次のようなご相談をお受けしています。

- 身体症状
痛み、倦怠感、嘔気・嘔吐、呼吸困難感、しびれ など
- 精神症状
不眠、不安、抑うつ、せん妄 など
- 療養場所の相談
- 在宅療養の整備
- 入院施設の相談
- 治療などに関する意見の不一致の相談
- 意思決定支援 など

ご覧いただければ分かるように、がんに関連する問題、つらさは非常に

多岐にわたります。そのため、われわれは多職種で構成されたチーム『がんサポートチーム』をつくり、入院されている方々のつらさに対応しています。患者さん、ご家族、担当の医療者からの情報をもとに、一人ひとりの患者さんについてカンファレンスを行い、チーム内で相互に情報を共有・検討し、つらさを少しでもやわらげる対応を考えます。当院では、普段の診療を担当する主治医や病棟看護師などのスタッフも、常に緩和ケアを含めた医療を提供し、また各病棟の緩和ケアリンクナースが、十分に緩和ケアが行われているかどうかを評価しています。さらに患者さん、ご家族の方でがんサポート(緩和ケア)チームへのご相談を希望される方は、主治医の先生もしくは病棟の看護師にお気軽にお伝えください。



▲がんサポートチームスタッフ

がんサポートチームスタッフ

- 医師(消化器内科・外科、呼吸器内科、精神神経科) 5名
- 薬剤師 4名 ● 看護副部長 1名
- がん看護専門看護師(CNS) 1名
- 認定看護師(がん性疼痛、緩和ケア、がん化学療法) 4名
- 退院調整看護師 1名 ● 臨床心理士 1名
- 医療ソーシャルワーカー 1名 ● 理学療法士 1名



がん診療連携拠点病院について



▲がん診療連携拠点病院指定書

厚生労働省は全国どこでも質の高いがん医療を提供することができるよう、全国にがん診療連携拠点病院を指定し、専門的ながん医療の提供、地域のがん診療の連携協力体制の構築、がん患者さんに対する相談支援および情報提供などを行っています。

当院は平成14年12月のがん診療拠点病院の指定に引き続き、平成18年4月1日から「地域がん診療連携拠点病院」に厚生労働大臣より指定を受け、平成27年4月1日以降も継続して指定を受けています。

この指定は、わが国に多い肺がん、胃がん、肝がん、大腸がん、乳がんなどについて地域の医療機関と緊密な連携を図る診療体制の向上や、基本的がん診療のさらなる均てん化などを図るため、継続的に質の高いがん治療を提供することを目指しています。

「地域がん診療連携拠点病院」の主な役割は以下の通りです。

- ①地域の医療機関と連携のもと、がんの専門的医療の提供。
 - ②府で定める統一的ながん登録方法に準ずる院内がん登録を整備。
 - ③院内がん登録情報を一般に公開、大阪府に情報提供し、がん診療連携拠点病院事業に協力。
- 最近のがん登録件数は以下の通りです。

平成24年	2,361件
平成25年	2,318件
平成26年	2,329件

- ④がん診療に従事する医師などに対する研修の機会を提供。
- ⑤住民に対し、がんの予防やがん医療を受けるために有用な情報の提供・啓発普及。

市民公開講座『あきらめない肝がん治療』

- ・場所／大阪赤十字看護専門学校 1階合同教室(当院敷地内)
- ・日時／平成27年10月17日(土) 13:30~15:00
- ・入場無料(申込み不要)

※詳細はP8に掲載しています。

以上、「地域がん診療連携拠点病院」として、患者さんに分かりやすいがん診療についての情報公開や、治療水準の向上に努めていきます。

● がん相談支援センター ●

「がんと診断されたが、今後の生活が不安」「医療費の制度について知りたい」「緩和ケアについて知りたい」など、がんに関するいろいろの疑問や不安、悩みに対して当院受診の有無に関わらずご相談に応じているのが、がん相談支援センターです。まず、医療ソーシャルワーカーがご相談を伺います。内容により、専門の看護師が対応する「がん看護相談」のご予約をお取りいたします。

お問い合わせ窓口

2階8番窓口「がん相談支援センター」
 電話番号／06-6774-5152
 Eメール／syakaika@osaka-med.jrc.or.jp
 受付時間／平日 8:30~17:00
 相談費用・方法／無料。面談・電話・Eメールにて対応。



▲がんサポートチームで病棟を回ります

緩和ケア外来

外来での治療やフォローアップを受けておられる患者さんへの緩和ケアも、入院時と同様に各担当医・外来看護スタッフを中心に行っています。さらに、心身の苦痛が強い方に対する緩和ケアを目的として、平成20年11月から緩和ケア外来を開設し、診療を行っています。外来では、より専門的な症状との連携など、特に在宅療養支援にも力を入れています。

緩和ケア外来受診をご希望の方は、

外来担当医、看護師にその旨をお伝えください。

診療日時

毎週火曜日・金曜日
 8時45分~11時30分(予約制)

おわりに

緩和ケア科は、医師の診療科の一つではありませんが、医師が提供できる身体および精神的なつらさの緩和の部分は、緩和ケアのごく一部にすぎません。その他のさまざまな苦痛に対応

するため、それぞれの分野のスペシャリストと連携し、個々の患者さんに適した対応ができるような仕組みをつくることや、日常診療での緩和ケアを担う医療スタッフの知識や技術の維持向上も行います。当院で診療を受けられる方々が、苦痛が少なく安心して療養していただける体制を、今後ますます充実させていきます。





大野 耕一

小児外科部長

子どもが笑っていると周りもうれしい。
親も一緒に笑顔になれる、そんな医療が目標です。

診る範囲が広い小児外科。
これまでの経験が活かされます。

小児外科で診る子どもの患者さんは、産まれる前の胎児から、新生児、幼い頃から通院して成長した大学生、社会人まで含まれる。年齢の幅広さだけでなく、消化器、呼吸器、肝臓、脾臓など、診療範囲も広い科である。「外科医は内科医と違って10年経っても一人前かどうかの、世界ひとつの臓器を専門とするのではなく、小児外科はあらゆる臓器が対象です。またその診療や手術についても経験が必要なため二人前になるまで時間がかかるといえます。」と小児外科医の大変さを話してくれた大野医師。現在、当院の小児外科医は2名と多くはない人数。年間手術数は約200件、手術がある日の診察などは、外科・検査部スタッフにサポートしてもらっている。

KOICHI OHNO

11月16日、大阪市生まれ。昭和60年に宮崎医科大学医学部卒業。兵庫県立こども病院をはじめ、淀川キリスト教病院、大阪市立住吉市民病院、大阪市立総合医療センターなどで小児外科医を務めた。また、大阪市立大学では臨床研究医・助手に従事。今年4月より当院小児外科部長に就任した。

土曜日は入院患者さんの経過観察、日曜日は病院からの呼び出しがあれば駆けつけられる状態という大野医師の休日。休みが取れ

週末、時間があれば
ジョギング。
いつでも仕事ができるように。

もともと子どもが好きで、診察を怖がる子どもと接するのはお手のもの。「いつも絵本を持って診察を行うので、そこから会話を広げます。ある程度話ができれば、子どもから話を聞くのですが、心配のあまり、お母さんが先に話をしてしまう場合がありますね。子どもが病気になる分かります。自分のことなら『仕方ない』と思えても、子どものことは違います。治療や手術をするときには、『ここが悪いのでこう治しましょう』と簡単な絵を描いて、病状や治療方法を理解してもらえようとしていますね。私も子どもがいて、自分の子どもと照らし合わせてしまうのですが、子どもにはいつも笑っていてほしい。お子さんとご家族が笑って過ごせる医療を目標にしています。」

「部長として赴任したばかりなので、自由な時間は少ないですが、小児外科を大きくしていきたいですね。手術数を増やすことや、小児外科医を育てて診察数を広げることなど、これまでの経験を活かしていければと思っています。」

「人ができないことをやろう」と思って選んだ仕事は医師で、『他の外科医がやらないようなことをしよう』と思って小児外科医となった大野医師。数々の病院を渡り歩いてきた経験から、多くの患者さんを笑顔にして見送ることのできる、そんな小児外科を創り出してほしい。



医学生時代はラグーマン・副主将だった大野医師。西日本医科学生総合体育大会ラグビー部門での記念写真(左)と練習後のワイルドな一枚。

れば健康管理のために15キロほどジョギングをしているのだそう。「家でのおんぶりするときは、飼っている金魚の世話や、テレビで野球観戦を楽しんでいます。」野球は兵庫県で勤務していた頃からオリックス・バファローズファン。球場観戦も行きたいのだとか。

看護師レポート・53



看護の原点はコミュニケーション。
そこからよいケアが生まれます。

田中 玲子

第二に考えた看護をしていますが、今の医療制度のもとで、思うようにできないんだろかなど感じることも多いですね。後輩たちには、のびのびと働ける環境を残してあげたいと最近よく思います。

看護師になったばかりの頃は、『看護は創意工夫、マニュアルじゃないよ』とよく言われました。今のようには物も少なく、どう工夫するか自分で考えて、ケアができたことに達成感がありましたね。患者さんは一人ひとり違うので、ケアの方法もさまざまです。結果は同じでも、自分で考えることにやりがいがあるし、上手いかわなくてもそこから学ぶものがあるという話を、よく話しています。

7年ぶりに病棟勤務に復帰して、患者さんと話せるのが楽しいです。うれしかったのは、地域医療連携室がしっかり定着してきたことです。以前に終末期の患者さんの在宅希望を叶えられなかった経験があるのですが、今回同じような患者さんがいて、地域医療連携室のスタッフによって在宅医療、訪問看護をすぐに手配し、患者さんの希望が叶って、患者さんにもご家族にも喜んでいただきました。

患者さんの思いを聞き、共有する。

看護の原点はコミュニケーションです。よいケアを届けるためにはコミュニケーションを大事にする、そのことを後輩たちにも受け継いでいければうれしいですね。



週末には、寺社巡りで御朱印集め。京都・建仁寺で見つけたお気に入りのお朱印帳。



年に一度の姉妹との旅行が楽しみのひとつ。三重県伊勢市・二見ヶ浦の夫婦岩をバックに。

REIKO TANAKA

10月28日長崎県生まれ。大阪赤十字看護専門学校卒業。当院に就職し、糖尿病・内分泌内科をはじめ、消化器外科・整形外科など、各科の看護を務めるとともに、看護係長、看護師長として看護管理職にも従事。平成21年より中央手術室看護師長を6年務め、今年4月より消化器内科病棟看護師長に就任した。

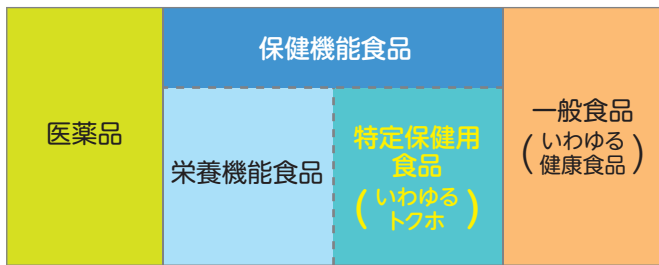


図1



食生活の普及啓発のために、「食生活は主食、主菜、副菜を基本に、食事のバランスを。」と表示することも義務付けられています。表示には他にもさまざまな決まりがあります。食品を選ぶ際には、トクホマークがあるから大丈夫ではなく、食事バランスを整えて、必要に応じて特定保健用食品などを有効活用しましょう。

他にも、規格基準に適合しているかどうか、個別の審査なく許可を受ける規格基準型、関与成分の摂取による疾病リスクの低減が医学的、栄養学的に認められ確立されている「カルシウムと、葉酸」に、疾病リスク低減表示ができることになっています。一般の健康食品、サプリメントと違い、許可証票の付いた特定保健用食品は、生理的機能や特定の保健機能を示す有効性および安全性の審査を受け、許可・承認されているものではありませんが、特定保健用食品のみの摂取では、食生活のバランスが乱れてしまいます。バランスの取れた

生理学的機能などに影響を与える保健機能成分を含んでいて、「お腹の調子を整える」など、特定の保健の目的が期待できることが表示されます。このような「保健の用途」を表示するには、個別に生理的機能や特定の保健機能を示す有効性・安全性など、科学的根拠に関する審査を受け、消費者庁長官の許可を受ける必要があります。そして、許可を受けた食品には「許可証票」を付けることができます。『許可証票』にはもうひとつ、『条件付き特定保健用食品』というものがあります。これは、科学的根拠レベルには届かないが一定の有効性が認められる、または限定的であることを条件として表示するものです。

食だより

健康食品などの分類について・2

栄養管理課 管理栄養士 山口 翔平

前号では栄養機能食品について紹介しました。今号では、『特定保健用食品』について、説明します。前回、お話しした通り『特定保健用食品』は、保健機能食品のうちのひとつとして分類されています(図1)。「特定保健用食品」は、食生活などが原因となって起こる生活習慣病などに罹患する前の人、もしくはその境界線上の人を対象として、食生活を改善し、健康の維持増進に寄与する食品であるという位置づけられています。身体の



お薬

ニ二知識



薬剤部 薬剤師 仲里 泰太郎

「脱水」について

少しずつ暑くなってきましたね。今回は「脱水」についてお話ししたいと思います。

●脱水の原因

脱水の原因はさまざまです。身近なところでは、暑さや運動によって多量の汗をかいたときや、お腹をこわしたことから下痢や嘔吐です。また、水分摂取量の減少も脱水を招く原因になります。

●脱水による症状

初期症状としては、汗が出にくくなる、皮膚が乾燥する、唇や口が乾く、あるいは尿の量が減るなどが挙げられます。脱水の進行に伴い、血圧が低下して、めまいやふらつきが起ったり、電解質の不足により足がつったり、顔が熱っぽくなったりします。

そのまま脱水が進んで重症化すると、失神や錯乱といった症状が現れます。

●脱水の治療

脱水の治療としては、まず軽度の場合は水を小まめに飲むことが挙げられます。脱水は体の水分だけでなく、ミネラルなどの電解質も失われます。水分だけの飲用は低ナトリウム血症に繋がりますので、OS-1などの適切な量の電解質を含む経口補水液は、脱水の治療に有効です。スポーツドリンクも有効ですが、必要な電解質を含まない場合があるため、経口補水液の完全な代用品にはなりません。経口補水液は処方箋が無くても、近くの薬局やドラッグストアで購入することができます。

重度の脱水に対しては、塩化ナトリウムを含む点滴が必要になってきます。また、下痢などが原因の脱水では、下痢をコントロールするお薬を使うこともあります。

●脱水の予防

脱水は、治療よりも予防がとても重要です。高温多湿の状態を避けること、また、脱水の治療とも関連しますが、小まめな水分摂取を心がけてください。特に高齢者の方は、喉が渇いたと感じる機能が下がっているため、意識的に水分を摂取するようにしてください。今は液体のものだけでなく、徐々に口に含めるゼリータイプの経口補水液も販売されていますので、それぞれの状態に合わせた利用をおすすめします。



がんサポートチームからのお知らせ
**がんを知って、がんとともに
 歩むために大切なこと**

がん看護専門看護師 小木曾 照子

vol.26

●情報リテラシーとは？

皆さん、突然ですが、情報リテラシー (information literacy) という言葉をご存知でしょうか？ 情報リテラシーとは、『情報を自己の目的に適合するように使用できる能力』のことであり、『情報活用能力』などと表現されます。近年、インターネットの普及により『がん』と検索するだけで多くの情報を、一度に得ることができるといえます。また、がんに関連する書籍や雑誌は、多くの書店の健康コーナーの大半を占めています。しかし、この大量の情報は、患者さんが病気のことを学んだり、治療を選択する際の意思決定に役立つ一方で、より不安にさせられたり、誤った選択をしてしまうことにつながる場合があります。さらに、病名や病状の告知後、治療中止といった、患者さんにとって良くない知らせの後には、気持ちが落ち込み頭が真っ白になり、自分にとって都合の良い情報のみを選択してしまいう状態になる場合もあります。つまり、情報リテラシーが低いと、適切な治療選択や自分らしい質の高い生活を送ることが困難になるとも言えます。

●正しい情報の大切さ

医師に相談なく、『がんが治る』と謳われている健康補助食品を摂取開始後に肝機能が悪化し、抗がん剤治療を断念せざるを得なくなった方、また、過度な食事制限により低栄養となり、下肢のむくみが増強し、趣味の散歩や家事ができなくなった方がいらっしました。すべての代替療法が悪い訳ではありませんが、ときには信じがたい情報に左右される方がおられるのも事実です。

●あなたにとって必要な情報の整理を

では、どのように大量の情報から自己の目的にあった物を活用すれば良いのでしょうか？ 多くの患者さんが治療の過程や現在の病状、療養の場の選択などにおいて、何が必要な情報かさえ分からないことが多いと思います。がん相談支援センター(本館2階8番窓口)では、今の患者さんの状況に必要な情報の整理を行い、正しい情報提供のお手伝いをしています。また、インターネットでご覧いただけの国立がん研究センターの『がん情報サービス』では、最新かつ正しい情報を得ることが出来ます。何を相談したらよいか分らないと思つたら、まずはがん相談支援センターに足を運んでいただき、情報の整理から始めてみませんか？

がん相談支援センター 当院では、がん全般に関するさまざまなご相談をお受けしています。TEL:06(6774)5192 FAX:06(6774)5126 syakaika@osaka-med.jrc.or.jp

大阪赤十字病院ホームページ

スマートフォン対応サイトがオープンしました！

スマートフォンで当院ホームページを閲覧される方が増えていることから、平成27年4月20日に、スマートフォン対応サイトをオープンしました。スマートフォンの画面でも見やすいデザインとなっておりますので、ぜひご覧ください。また、平成27年1月には、PCホームページもリニューアルしました。どちらのサイトにも当院の受診や入院のご案内をはじめ、診療科や医師の紹介などについて詳しく掲載しています。当院の情報入手にご活用ください。

スマートフォン
サイト
トップページ



入院のご案内

ご入院までの流れや費用などに加え、入院生活についての注意事項や退院(転院)支援などについて掲載しています。快適な入院生活を送っていただけるよう、当ページをご活用ください。

外来のご案内

受付・診療時間をはじめ、外来受診の流れや紹介状の説明など、スムーズに外来を受診していただける情報を掲載しています。また、診療担当表もこちらからご覧いただけます。

診療科・医師のご紹介

診療科の特色を紹介、医師紹介では医師名や専門分野を掲載しています。

「お見舞いメール」について

遠方にいる、お仕事が忙しいなど、なかなかお見舞いに来ることができない方もいらっしゃると思います。「お見舞いメール」は、ホームページ上からアクセスして、必要事項とメッセージを入力していただくと、当院でメッセージを印刷したお手紙を入院中の患者さんにお渡しするサービスです。診療日の午前10時までに届いたメッセージは、午後3時頃に患者さんにお届けします(午前10時以降や休診日の場合は、翌診療日のお届けになります)。どうぞご利用ください!

http://www.osaka-med.jrc.or.jp

大阪日赤 検索

PC
サイト

トップページ



ネパール地震救援事業に、職員を派遣

泌尿器科部副部長 光森 健二



メランチ村の診療所で手当てを開始する光森医師たち

4月25日15時11分(日本時間)、ネパールでマグニチュード7.8の地震が発生しました。これにより、同日20時には先遣隊全5名のうち、当院から私と矢野看護師の派遣が決まりました。先遣隊は、赤十字の救援隊である緊急対応ユニット(ERU)の派遣前に現地に入り、現地赤十字社や政府から被災状況の情報を確認した上で、活動地を決める交渉など本隊受け入れの準備を行います。同時に、医薬品を持参して医療救護も速やかに開始します。

地震発生翌朝11時には、関西国際空港を出発しましたが、カトマンズ空港に救援物資を積んだ航空機が殺到したため、28日にやっとネパールに到着しました。

首都カトマンズでは大きな被害は見受けられませんでした。29日に今回活動拠点となったメランチ村に向かっていると、徐々に道路のひび割れや建物の損壊が目につくようになりました。地方ではレンガを積んだだけの家が多く、そのほとんどが倒壊していました。メランチ村の診療所には、通常の倍以上の患者さんが殺到。数にして1日に200人以上が受診し、そのなかの50〜60人が外傷で何らかの処置が必要な状態でした。応急処置もままならない状況で、われわれはすぐに診療所内で救護活動(化膿した傷の処置や傷の縫合、ギプス固定などの外傷の処置)を開始しました。その後、5月2日には本隊も到着し、現在では診療所での処置だけでなく、周囲の村落への巡回診療や被災者の心のケアも行われています。

私の現地での活動は10日間でしたが、日赤の救援活動は3カ月続く予定です。当院からも多数の要員が参加しています。その後、さらには復興事業も行われる予定です。

緊急派遣による突然の不在で多大なるご迷惑をおかけしたにもかかわらず、帰国後は多くの方々に温かくお声をかけていただきましたこと、心より感謝申し上げます。今後はこの経験を活かして、さらによりよい医療を目指し、努めてまいります。



ケガの手当をする矢野看護師



被災者を処置する花原看護師

大阪赤十字病院 Q&A

大阪赤十字病院に関するちょっとしたギモンをQ&A形式で紹介します。

Q

「最近、国内でも自然災害が多くなっていると思います。大阪赤十字病院の災害時の対応について教えてください。」

A

当院では、平成17年から毎年、大規模な地震を想定した災害訓練を実施しています。災害という非常事態が発生した場合、いくらかの防災施設を整え、いくらきちんとしたマニュアルを整備していても、肝心の職員の防災意識がなければ、対応することができません。結局はそこにいる「人」が最も重要となります。

当院の災害訓練は、平日に外来診療から院内諸検査などをすべて休止し、災害時と同じ状況にして、全職員が参加しています。数百名の模擬被災者が、防災機関(大阪市消防局、大阪府警察、陸上自衛隊などに)救出され、病院に運ばれます。病院では全館あげて災害体制に移行し、来院される被災者の検査や手術、入院などを行います。職員をはじめ防災機関も被災状況を事前に知りませんので、本番と同じ状態で訓練を行うことになり



被災者を救出する機動隊員

ますが、実際に災害が起こった場合にどうなるのか、その状況でどのように行動すべきかを考え、対応しています。このような訓練で毎年多くの課題が見つかり、それに対処するということを繰り返しています。

今年も10月1日(木)午後には院内災害訓練を実施いたします。当日、予約のない診療(初診など)受付は、午前10時で終了させていただきますので、ご注意ください。また、訓練中は救急センターも含め全館休診とし、病院敷地内への立ち入りや、建物への出入りが規制されます。皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。



けがなどの処置を行う医師と看護師



被災者が次々と来院します

写真は昨年の訓練の実施風景より

Topics Box

トピックス & ニュース

Event

全日空より『しあわせの花』 すずらんの寄贈



6月3日(水)、ANAグループ(全日本空輸株式会社)の皆さまが、北海道で栽培されたすずらんの花と、すずらんの香りがするしおりの贈呈に来院されました。すずらんの寄贈は、今年で60回目を迎えます。隠岐院長はじめ職員が1階正面玄関でお迎えし、寄贈セレモニーが行われると、続いて客室乗務員と地上旅客係員の皆さんが、1階玄関ホールや病棟を訪問、しおりを患者さんやご来院の方々へ手渡されました。「しあわせ」という花言葉を持つすずらんが届けられ、幸せな笑顔が院内に広がりました。

News

大阪赤十字病院『市民公開講座』を開催します テーマ: あきらめない肝がん治療



当院では、一般の方を対象とした市民公開講座を年に一度開催しています。今回は、肝がんをテーマに、2名の専門医師が治療について分かりやすくお話しします。講座を通じて、不安や疑問を少しでも解消していただければ幸いです。どうぞお気軽にご参加ください。なお、参加費は無料、事前のお申込みは不要です。

- 日時/平成27年10月17日(土) 13:30~15:00
- 場所/大阪赤十字看護専門学校 1階合同教室
- 講師/大阪赤十字病院 第一消化器外科部長 有本 明、第二消化器内科部長 木村 達
- お問い合わせ先/診療情報管理課 TEL:06-6774-5111(内線2302)

Event

「あじさいコンサート」開催しました

6月21日(日)午後2時から院内コンサートを開催しました。当院ボランティアが参加するグループ『グリーンズカルテット』による演奏が披露されました。6月にまつわる曲として「瀬戸の花嫁」や「海」が、バイオリンやチェロの爽やかな音色で奏でられました。この日は100人以上の観客がご来場になり、盛会のうちに終了しました。



News

赤十字運動月間のご報告

日本赤十字社は毎年5月・6月を「赤十字運動月間」として、赤十字社の理念や活動を皆さまに知っていただき、活動資金のご協力をお願いしております。当院でも5月に院内数カ所に募金箱を設置し、皆さまから18,826円のご寄附をいただきました。今後も日本赤十字社へのご協力をよろしくお願いいたします。

●編集後記

本誌「びり〜ぶ」の8ページにこれまで掲載しておりました「診療担当表」は、7月より別紙面にてご案内することとなり、より新しい情報を皆さまにご提供できるようになりました。

また、「びり〜ぶ」本誌についても、文字が大きくなり、よりご覧になりやすいレイアウトで、情報量もアップしています。少し変化した「びり〜ぶ」を今後どうぞお楽しみください。(Y.N)

人事異動情報 (平成27年4月1日~6月30日)

新任 (4月1日付) ●**リウマチ・膠原病内科**/常勤嘱託医師・田淵 裕也、非常勤嘱託医師・松尾 崇史 ●**腎臓内科**/医師・古賀 健一 ●**血液内科**/部長・今田 和典、専攻医・光吉 貴哉、野村 亮介 ●**糖尿病・内分泌内科**/専攻医・藤村 真輝 ●**消化器内科**/副部長・浅田 全範、医師・山階 武、多木 未央、専攻医・松前 高幸 ●**循環器内科**/医師・金沢 武哲、専攻医・湯川 弘、非常勤嘱託医師・森田 雄介 ●**不整脈内科**/非常勤嘱託医師・二宮 智紀 ●**神経内科**/専攻医・辻 雄太、常勤嘱託医師・梶川 駿介、非常勤嘱託医師・梶 誠兒 ●**外科**/医師・康 裕紀子、川田 洋憲、専攻医・梅本 芳寿、吉本 秀郎、常勤嘱託医師・藤井 雄介 ●**第二消化器外科**/部長→臨床検査科部常勤嘱託医師・中島 康夫 ●**心臓血管外科**/専攻医・和田 浩巳 ●**眼科**/専攻医・山川 百李子 ●**皮膚科**/非常勤嘱託医師・西村 陽一 ●**泌尿器科**/医師・神田 壮平、飛田 卓哉 ●**小児科**/専攻医・田尻 雄二郎 ●**小児外科**/部長・大野 耕一 ●**呼吸器内科**/医師→救急科非常勤嘱託医師・吉田 真教、専攻医・石川 遼一 ●**呼吸器外科**/医師・山崎 順久 ●**精神神経科**/副部長・粉 祐二、専攻医・亀井 士郎 ●**整形外科**/部長→非常勤医師・富原 光雄、医師・尾藤 博信、非常勤嘱託医師・宗 和隆 ●**放射線診断科**/医師・森 暢幸、矢嶋 諒、専攻医・岡澤 藍夏、川田 千裕 ●**救急科**/医師・山田 圭吾 ●**麻酔科**/非常勤嘱託医師・董 理、非常勤嘱託歯科医師・平田 裕也 ●**病理診断科**/非常勤嘱託医師・羽賀 博典、桜井 孝規、南口 早智子、吉澤 明彦、片岡 竜貴、渋谷 信介、武内 英二、松城 尚憲 ●**健診センター**/非常勤嘱託医師・藤井 紀恵 ●**臨床研修医**/切通 祥子、大木元 達也、網野 遥、田矢 知大、上羽 瑠子、山内 綱大、中西 梨紗、陸野 尚仁、濱田 舞、澤田 賢治、島津 夢太 (4月30日付) ●**産婦人科**/医師・岩見 州一郎 (5月1日付) ●**眼科**/医師・中西 正典、医師→非常勤嘱託医師・中川 聡子 ●**産婦人科**/医師・川田 悦子

退職 (4月1日付) ●**リウマチ・膠原病内科**/非常勤嘱託医師・伊藤 能永 ●**腎臓内科**/副部長・越川 真男、医師・大崎 啓介 ●**血液内科**/副部長・平田 大二、専攻医・小西 義延、酒巻 太郎 ●**糖尿病・内分泌内科**/医師・南部 拓矢 ●**消化器内科**/副部長・西川 浩樹、医師・中島 潤、専攻医・遠藤 正嗣 ●**不整脈内科**/医師・佐野 文彦、非常勤嘱託医師・後藤 貢士 ●**神経内科**/副部長・金田 大太、非常勤嘱託医師・高橋 由佳子 ●**外科**/医師・山浦 忠能、吉村 文博 ●**心臓血管外科**/医師・伊藤 恵 ●**眼科**/非常勤嘱託医師・大中 恵里 ●**泌尿器科**/医師・前野 淳、住吉 崇幸 ●**小児科**/専攻医・房安 直子、非常勤嘱託医師・朴 永東 ●**小児外科**/部長・松川 泰廣 ●**形成外科**/医師・小田 祐美子 ●**放射線診断科**/医師・大野 亜矢子、専攻医・大嶋 園子、非常勤嘱託医師・古田 昭寛 ●**麻酔科**/専攻医・本山 あすみ、非常勤嘱託医師・川本 修司、非常勤嘱託歯科医師・市丸 裕理、渡辺 麻莉 ●**第一病理診断科**/部長・新宅 雅幸 ●**健診部**/非常勤嘱託医師・佐野 由佳 ●**臨床研修医**/上田 潤、八木田 麻裕、大谷 翔一、我妻 信和、山下 剛生、吉田 紀子 (4月29日付) ●**産婦人科**/医師・安堂 有希子 (5月31日付) ●**眼科**/医師・高山 弘平 ●**産婦人科**/医師・古田 希 ●**放射線診断科**/医師・森本 笑子 (6月17日付) ●**血液内科**/副院長・通堂 満 (6月30日付) ●**脳神経外科**/医師・土井 健

病院のご案内

- 受付時間(月~金) (診療開始は午前8:45からです)
初診/月曜日~金曜日 8:30~11:30 再診/月曜日~金曜日 8:00~11:45
- 休診日 土・日・祝・5月1日(本社創立記念日)・12月29日~1月3日
- 診察券 診察券は全科共通で使用いたしますので、ご来院時には必ずお持ちください。
- ご面会 (病状によってこの限りではありませんが、必ず病棟の看護師にご相談ください)
平日/14:00~19:00 休診日/10:00~12:00、14:00~19:00
小児病棟(平日・休診日とも)/14:00~19:00
- 保険証等 保険証、医療証等は月に1度窓口で確認させていただきます。
また、変更・更新の際は必ずご提出ください。

当院は
敷地内全面禁煙です
当院は平成22年12月1日より、敷地内全面禁煙を実施しています。ご理解とご協力をお願いします。



大阪赤十字病院

大阪市天王寺区筆ヶ崎町5-30 平成27年7月発行

■お問い合わせ

TEL:06-6774-5111 (代表)

大阪赤十字病院 <http://www.osaka-med.jrc.or.jp/>

赤十字全般 <http://www.jrc.or.jp/>

